



2022年11月30日発行

奈良町見知ル実行委員会 Newsletter 特別号③

特集：特別イベント



見学先の「木画」の坂本曲齋さん、「表具」の三木栄秀堂さんで、館長から歴史・文化に職人魂が混ざり合った素敵なお話を聞いたお客様、はじめは静かに、でも熱心に聞き惚れていたのが、最後は質問の嵐。

京街道を上り、途中で奈良の町を見下ろして江戸時代の旅人の気持ちになりつつ、ゆったりとした時間が過ぎて、最後の植村牧場さんで、おいしい牛乳の話を聞いて、解散。

「この色はどうやって出すの？」「材料の産地は？」「掛け軸にシミができるのはなんですか？」

京街道と息づく伝統！

まちかど博物館見学ツアーケーチタマチ



(田中梨絵)

解散後には植村牧場で一緒に食事をするお客様もいらっしゃって、一期一会、「まちひと」「文化とひと」「ひとひと」とイベントは素敵なか出会いの場なんだなとしみじみ思いました。

元興寺旧境内と息づく伝統！

まちかど博物館見学ツアーケーナラマチ

「こんな面白いツアー、参加しないのはもったいない！」

「墨屋」の松壽堂さん、「薬屋」の菊岡漢方薬局さん、「蚊帳屋」の吉田蚊帳さんを見学し、元興寺旧境内を歩いてまちの成り立ちを感じたお客様の一言です。

こちらのツアーも質問が多くて楽しんでいただけていて、返しかけたのをグッと堪えて、最後の見学先「町家の庭園」の辻家住宅さんへ。

辻家では「立派な中庭」だけでなく「生活の裏庭」も案内いただきました。「町家の裏側ってこんなふうになつてたんですね、初めて見ました！」

という皆さんの驚きの声に「そうでしょう？なかなか見れないんですよ。」と、最後にとつておきの一言でご案内を終了。

実際にものを見て、話を聞いて、体感して、会話を楽しむのが、まちかど博物館の醍醐味ですね。

(田中梨絵)



(参加者の皆さんとの声)

あつという間の2時間、もう少しゆっくり見たいところもあつたけど、コンパクトに普段は入れないところを見せていただいてよかったです。こんな機会が増えますといな。

とても楽しかつたです。田中さんのガイドもグッド！こんな機会をまたもつと！



「ここを片づけて、整理していくうちに、少しずつ『空気』が変わっていくのを感じたんです。」

ガイド役は、喜多和夫さん。一九二五年に曾祖父が創業したこの工場では、人々の健康長寿を願い、乳酸菌の研究と料の製造が行われていました。そして、製造休止から三十年の時を経て、喜多さんはこの工場をリノベーションして、その事務所スペースにカフェをひらかれました。

大正時代の〈工場跡〉特別ガイド

工場跡事務室



【参加者の皆さんとの声】

奈良県は古い建築物をどんどん壊していく、新しいビルにかわっています。古くて価値のある建造物の保存に力を入れていただければ幸いです。

この工場が動いてきた過去の記憶、そして、新たに時を刻み始めている今この瞬間。折り重なる時間の流れを教えてくれる「空気」は、凜としているけれども柔らかく、温かさを感じました。

(杉山晋平)

マニ、父・豊成の屋敷跡とされる誕生寺と徳融寺を訪ねるツアーでした。二寺ともに事前予約が必要で、個人ではなかなかお参りしにくい面があります。拝観できたことだけでなく、ご住職などお寺の方に直接お話を聞けることにも参加者は感動してくださいました。

ならまち中将姫ゆかりの寺院をたどる （徳融寺・誕生寺）

(倉橋みどり)

【参加者の皆さんとの声】

市内にいても、知らないことがまだあると痛感しました。機会があればまた参加したいです。

奈良にいながら知らないところが多く、制覇してみたりになりました。行つたところにマーカーをしました。ありがとうございました。

見知ル、すごいですね。



春日山不空院境内特別ガイド

不空院



春日山不空院さんは、副住職の三谷さんが境内の中を護摩堂、鎮守堂、本堂とご案内くださいました。仏様のお話から、建物のお話、行事のお話なども聞きながら、境内を隅から隅まで三谷さんの案内で見学するお客様。護摩堂では、建つてから八年ほどの白かった漆喰壁が護摩行によつて真っ黒になつてゐる話を聞いて驚いたり、

閉鎖されていた工場内を片づけ、当時の面影を大切にリノベーションしていくには、長い時間がかかったそうです。

その作業を進めるうちに、この場所の「空気」が少しずつ変わっていくのを感じた、と喜多さんは語ります。

奈良が大好きですが、まだ知らないことがたくさんあると感じたので、古い建物に入る機会、知る機会が増えれば嬉しいです。

奈良が大好きですが、まだ知らないことがたくさんあると感じたので、古い建物に入る機会、知る機会が増えれば嬉しいです。



秘仏をルーペでじっくり拝観したり、境内の小さなお社にも参拝したりと、なんだかとてもゆっくりとした時間が流れていきました。

お客様お一人お一人が仏像やお社で時間をかけてお祈りをする様子を見ていると、奈良時代の鑑真和尚から現代まで続く信仰の場という歴史の延長に、今まさにいるんだなという気持ちになりました。

三谷さんとお客様が一緒に紡ぐ時間におじやましているかのようでした。

(田中梨絵)



柳生街道 高畠ツアー

今西家書院・藤間家住宅・不空院



あいにくの小雨の中ではあります。奈良町見知ルに参加する三つのスポットを巡りました。

リナガラ、柳生街道、高畠エリアを歩く特別ツアーガイドは、郷土史家の津田慎一さん。訪れる先々でも、道すがらでも、津田さんの親切で丁寧な解説に参加者の皆さんも大満足です。

最初に訪れたのは、今西家書院さん。子持障子や蔀戸、茶室や煤竹の天井など、参加者の皆さんも興味津々で説明を聞いておられました。

さて、ツアーワークは柳生街道を歩き、頭塔を横目にさら

に進んでいきます。特徴的な土壙、門をくぐつて到着したのが藤間家住宅さん。中に入つて目の前に広がるギャラリーには、思わず目

を奪われます。津田さんからも土壙の保全・修復について解説をしていただきました。

最後に辿り着いたのが、春

日山不空院さん。本堂の不空羈索観音像、鎮守堂の宇賀弁財天女坐像を拝観しました。

鎮守堂の天井絵の鮮やかさ、素晴らしいに見惚れて、なかなかその場を離れられなくなつてしましました。奈良町見知ルのスポットを結んだツアーアクション。参加者の皆さんからも好評の声をいただきました。

(杉山晋平)

地味ではあるが、歴史的に意義のあるものなどを公開していただけるのは大変嬉しい。

昭和初期の〈奈良町家〉町家で過ごすひととき京終やまぼうし



た文化財や記録、家財道具は吉岡さんご夫婦が大切に保存してくださっています。美味しい焼き菓子を味わい、町家に刻まれた暮らしと歴史を思いやる時間となりました。

(杉山晋平)

【参加者の皆さんとの声】

奈良の町家のことを知ることができて、勉強になりました。おいしいケーキと一緒に飲み物、お土産もありがとうございました。なかなか時間が合わず来ることができました。時間が合ったのが、このイベントを通じて参加することができます。良かつたです。

柔らかく優しい灯りとガラス障子、秋を感じさせる中庭と渡廊下、店主の吉岡さんの親切で温かい案内。この町家の記憶とともに、残されてい

た。奈良の町家のことを知ることができた。本当に興味がありました。お土産もありがとうございました。なかなか時間が合ったのが、このイベントを通じて参加することができます。良かつたです。

(杉山晋平)

た。奈良の町家のことを知ることができた。本当に興味がありました。お土産もありがとうございました。なかなか時間が合ったのが、このイベントを通じて参加することができます。良かつたです。

(杉山晋平)

にされたこの言葉に深く共感しました。大正終わりのレンガづくりの冰室を醤油蔵とし、仕込みから長期間の発酵・熟成までの醸造工程には無駄がなく、むしろ驚きは酵母の力を活かして生み出されるプラスの循環にあります。今、取り組んでおられるのが「木桶」仕込みの醤油づくり。木桶での醸造に回帰しながら、これからの醤油づくりの道を拓くという新たな挑戦も始まつて

レンガ造りの〈醤油蔵〉

イゲタ醤油（株）井上本店



山清文さんのガイドで京終駅舎の歴史さんぽ。当時の産業や暮らしのお話を聞きながら、目の前で今と昔の風景が重なって見えてくるかのようで

コミュニティ駅長さんの 京終駅舎歴史さんぽ

ガイドは、6代目の吉川さん。とても気さくで優しいお人柄も相まって、お話をぐんぐん引き込まれました。参加者の皆さんも吉川さんが語る醤油づくりの精神や哲学に深く首肯しながら、大満足の様子でした。

い
ま
す。

A man in a dark blue uniform with a peaked cap and a white face mask stands in a room with framed pictures on the wall. He is holding a small red object in his right hand. In front of him is a wooden desk with a small globe and some papers. A person in a plaid shirt is partially visible on the left, and another person's head is visible on the right.

「参加者の皆さん之声」

す。また、今回のイベントに合わせて、往時をしのばせる貴重なお宝も公開され、参加者の皆さんも感嘆の声をあげていました。

歴史さんぽの終了後、駅舎の前で肩を並べて語り合う駅舎長さんと参加の方々の姿がとても素敵でした。いつまでも大切にしていきたい、地域の記憶が刻まれた駅舎です。

奈良市に引っ越ししてきて、年々、歴史のある奈良町の近くに住んでいます。今後も貴重な歴史を学んでいきたいです。本日はありがとうございました。

ローカルの方からのお話を楽しみにしていました。また参加したいです。よろしくお願ひいたします。

まちの昔の様子がわかるのは楽しいことでした。これからもゆっくりと案内していくので、企画を期待します。

近くに住んでいながら、なかなか京終駅に来ることはな
く、晴天の秋の日にじっくり駅舎の話を聞いて非常に良
かった。ご案内くださった駅長さん、市の職員さんのお人
柄がとても良くて、良い時を過ごせました。ありがとうございました。



奈良町見知ル実行委員会 Newsletter 特別号③

2022年11月30日発行

編集：杉山晋平（天理大学）

写 真 : 勝野 一 (奈良まちづくりセンター)

田中 梨絵（奈良市） 杉山 晋平

連絡先 : shimpei@sta.tenri-u.ac.jp



© 奈良町見知ル実行委員会 2022